「感じ」「動き」「かわる」…子どもも学校も，さらに一歩前へ！

さくらの学校だより

平戸市立田平東小学校　学校だより　令和８年１０月２７日　文責：校長　森川　稔

台風一過

台風30号接近のため，昨日は市内全校で臨時休校となりました。進路がずれ，若干の風雨はあったものの，学校においては施設等の被害もなく，子どもたちの登校を迎えることができました。各ご家庭，地域におかれましても急な対応へのご理解，ご協力ありがとうございました。



つながる学び，広がる笑顔（幼保小連携の取組）

幼稚園やこども園での育ちを小学校での学びや生活につなぎ，子どもたちが安心して小学校生活をスタートできるようにすることは，とても大切です。本校では，近隣のこども園との交流をとおして，子どもたち同士のつながりを深めながら，小学校への期待を膨らませる取組を進めています。

先週２１日（水）に，来年１年生になる近隣のこども園の年長さんをお迎えし，交流会を開催しました。あいにくの天気でしたが，傘を差して元気にやってきた園児のみなさん。１年生の教室に案内され，まずは給食を一緒に食べました。

１年生は，ちょっぴり頼もしい表情で，「手洗いはここだよ」「給食はこうやって置くんだよ」と優しく声をかけながら，給食の準備や配膳を手伝っていました。みんなで「いただきます」をした後は，グループごとに楽しくおしゃべりをしながら給食を味わいました。初めは少し緊張気味だった園児のみなさんも，お兄さん・お姉さんたちの温かな気配りに，すぐに笑顔が見られるようになりました。

給食の後は体育館へ移動し，みんなでレクリエーションを楽しみました。始めと終わりの言葉やレクリエーションの進行も，１年生が担当しました。「だるまさんがころんだ」や「かわりおにごっこ」で元気いっぱいに体を動かし，笑顔あふれる温かな時間となりました。

少し前までは「新入生」だった１年生が，すっかり頼もしい「お兄さん・お姉さん」になっている姿に，大きな成長を感じた一日でした。園児のみなさんにとっても，小学校での生活を身近に感じる機会になったことと思います。こども園のみなさん，来年４月にまた一緒に学校生活を送れることを，楽しみに待っています。






中学生へのあこがれを胸に～小中連携の取組～

小学校から中学校への進学は，子どもたちにとって大きな節目の一つです。学習や生活の変化に期待を膨らませる一方で，不安を感じる子どももいます。だからこそ，小学校と中学校が連携し，

互いの学びや生活を知り，子どもたちの成長をつないでいくことが大切です。

先週，町内の中学校で文化祭が開催され，午後から行われた合唱コンクールに，本校の6年生も参加しました。町内の小学校から集まった5・6年生が，中学1年生から3年生までの各学級の合唱を鑑賞しました。

体育館いっぱいに響く歌声，仲間と心を一つにして堂々と歌う中学生の姿に，子どもたちは圧倒された様子でした。自分たちより少し年上の先輩たちが，一生懸命に歌う姿を目の当たりにし，中学生へのあこがれや，その成長のすばらしさを感じたようです。学校に戻ってから書いた感想にも，心を動かされた様子が表れていました。



実際に中学生の姿に触れることは，子どもたちにとって，中学校生活を具体的に思い描き，進学への期待を膨らませる貴重な機会となります。これからも町内の小中学校が連携を深め，子どもたちが安心して次のステージへと進み，自分らしく成長していけるよう，取組を進めていきます。

・初めて聞いた合唱は，みんなの声が揃っていたのですごいと思いました。私のお兄ちゃんは指揮者で，緊張しているところを見せないようにしているのを見て，私ももっと努力しようと勇気をもらいました。
・男子も女子も恥ずかしがらずに声を出して歌っているところがすごいと思った。歌っているときの姿勢や男女で分かれて歌うところもピシッと決めていて，何回も練習してきたんだなと伝わった。
・ぼくは合唱を聴いて二つ思ったことがあります。一つ目は高音と低音がすごくきれいに重なり合っていたところです。二つ目は姿勢です。歌っている人，指揮者，ピアノを弾く人，みんな背筋をピンとのばしていてすごいと思いました。来年はぼくもあんなふうに歌いたいです。
・一人一人がしっかり声を出し，合唱中に微動だにしていなかったのがすごいと思いました。今度の学習発表会での歌では，中学生みたいにもっと声を出し，みんなを引っ張っていきたいです。

一歩一歩たくましく

朝夕の空気に，秋の深まりを感じるようになりました。毎朝，校門前で子どもたちを迎えていると，一人一人の登校の様子から，さまざまなことに気付かされます。

本校は校区が広く，多くのご家庭に車での送迎をしていただいています。安全に気を配り，学校周辺での乗降にもご協力いただいていることに，心より感謝しています。



そんな中，夏の終わり頃から，学校まで3キロ近くの道のりを，ほぼ毎日歩いて登下校している子がいます。「朝7時20 分までに学校に着きたい」という本人の思いを受け止め，ご家庭で出発時刻を一緒に考え，毎日実践しているとのことです。自分の目標に向かって，一歩一歩，自分の足で歩く。その姿からは，少しずつたくましさも感じられるようになってきました。

先日，いつものように校門前で立哨をしていると，その子のお父さんが車の速度を緩め，横断歩道のところで窓を開けて，「今日も歩いてきています」と，うれしそうに声をかけてくださいました。毎日歩いている子どもの姿を，家庭でも温かく見守り，そのがんばりを喜んでおられることが伝わってきて，私もうれしい気持ちになりました。

子どもの成長は，毎日の小さな積み重ねの中にあります。自分で決めたことに取り組む姿，わが子の頑張りを喜ぶ家族の姿，そして，その成長を温かく見守る周囲の人々。こうした一つ一つが，子どもたちの育ちを支えているのだと，改めて感じます。

これからの季節は，体を動かすにも気持ちのよい時期です。ご家庭の事情や通学距離，安全面など，それぞれの状況に応じながら，いつもより少し歩く距離を伸ばしてみるのもよいかもしれません。

子どもたちの小さな一歩を見つめ，その頑張りを認め，家庭・学校・地域がともに喜び合える。そんな温かなつながりを，これからも大切にしていきたいと思います。

田平東小ＨＰはこちらから→